

科目名称：	プログラミング演習 I	
担当者名：	瀬戸 就一	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
C言語を利用してプログラミング技能を修得します。この授業では、数多くの演習課題を行うことでC言語のプログラムに慣れてもらい、C言語の基礎プログラミングを学習することが目的です。ただし、プログラミングの作成技法に関しては参考図書等による自己学習が前提です。授業履修後には、サーティファイ社が実施している検定「C言語プログラミング能力認定試験3級」が取得できるよう授業を進めます。		
授業の達成目標・到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・C言語の概念を理解し、簡単なプログラムが書けること ・char, int, unsigned, signed型の単純変数と配列を理解する ・演算子（算術、代入、関係、等値、論理関係、括弧、コンマ、インクリメント、デクリメント）を理解する ・基本制御文（break, continue, do, for, if, return, switch, while）を理解する 		

する

ビジネス実務学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	地域社会を理解し、様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化するビジネス社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP(3)	ビジネス実務の分野において、基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、各種資格取得を目指して専門性を磨き、これらを柔軟に活用していくことができる。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP(1)					0
ビジネスDP(2)					0
ビジネスDP(3)	70		20	10	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考
※本授業は週2コマを利用し、始めの15回をプログラミング演習 I、残りの15回をプログラミング演習 II として実施する。

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
プログラムの流れ	問題文を読んで、条件に基づいてプログラムの流れを正確に書くことができる	問題文を読んで、条件に基づいてプログラムの流れを書くことができる	問題文を読んで、条件に基づいてプログラムの流れを指示通りに書くことができる	問題文を読んで、条件に基づいてプログラムの流れを書くことができない
命令の使い方	プログラムの流れに沿って、適切な命令を選択し、1行1行正確な結果を出力する命令を書くことができる。	プログラムの流れに沿って、適切な命令を選択し、結果を出力する命令を書くことができる。	プログラムの流れに沿って、指示した通りの命令を使用し、結果を出力する命令を書くことができる。	プログラムの流れに沿って、指示した通りの命令を使用しても、結果を出力する命令を書くことができない。
コンパイルの仕方	ソースプログラムを作成し、コンパイラを使用し、正確にコンパイルすることができる。	ソースプログラムを作成し、コンパイラを使用し、コンパイルすることができる。	ソースプログラムを作成し、コンパイラを使用し、指示した通りにコンパイルすることができる。	ソースプログラムを作成し、コンパイラを使用し、指示をしてもコンパイルすることができない。
エラーの対処	コンパイルエラーや実行エラーの原因を自分で考え、試行錯誤しながらエラーの対処が正確にできる。	コンパイルエラーや実行エラーの原因を自分で考え、試行錯誤しながらエラーの対処ができる。	コンパイルエラーや実行エラーの原因を自分で考え、指示通りにしながらエラーの対処ができる。	コンパイルエラーや実行エラーの原因を自分で考え、指示通りにしてもエラーの対処ができない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 コンピュータ言語とは、操作環境、プログラムとコンパイル	「C言語」の言語プログラミング能力認定試験3級について、事前に調べておく	30分
第2回 printf関数で計算と表示、書式化して表示	ソースプログラムを作成し、コンパイルして実行するまでの命令を復習しておく	30分
第3回 演習1: printf関数で書式化して表示、演習2・3: 書式化を行わない表示1,2	printf関数で書式化して表示する方法と、書式化を行わない表示方法を理解しておく	60分
第4回 変数	数学の分野で学んだ「整数」と「実数」の相違について調べておくこと	60分
第5回 読み込みと表示	int型とdouble型の相違をまとめておくこと	60分
第6回 演習4・5: 読み込んだ整数値に加減算を行う	int型とdouble型の読み込みと表示方法の相違をよく理解しておく	60分
第7回 printf関数とputs関数の相違、使い方	キーボードから入力した値を計算して、指定の表示で出力するプログラムを理解しておく	60分
第8回 演習6: puts関数、演習7: 読み込んだ整数値の計算、演習8: 読み込んだ整数値の計算2	printf関数とputs関数の相違を理解しておく	60分
第9回 演算子と型	int型とdouble型の演算はどうなるのか調べておくこと	60分
第10回 演習9: %演算子、演習10: 2つの整数値を読み込んで、その和と積を求める	printf関数の書式化して表示する方法を復習しておく	60分
第11回 代入演算子、int型とdouble型、キャスト	double / int, int / doubleの異なる型の演算はどうなるのか調べておくこと	60分
第12回 演習11: int型とdouble型の計算、演習12: キャストで平均点を実数表示	キャストとはどんな時に使用する機能か？	60分
第13回 分岐 (if文)	「分岐」とは何か？「分岐」する条件とはどのように設定するのか予習しておくこと	60分
第14回 演習13: if文、演習14: if-else文、演習15: 読み込み+if-else文	if文が「分岐」の条件によって、どのように変わるのか調べておくこと	60分
第15回 期末試験模擬テスト	変数、読み込み、printf関数、if文などの命令を復習しておくこと	120分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題をまとめ、Googleクラスルームにて提出することになる

成績評価の方法・基準

定期試験は、70%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。

期末試験70%、授業課題20%、積極的な授業参加の関与10%で評価を行う。

課題に対してのフィードバック

授業の課題を評価し、返却する。

教科書・参考書

教科書： 新版 明解C言語入門編 柴田望洋著（ソフトバンク パブリッシング(株刊)）※毎回、指定ページを参照し演習を行う。

参考書： 解きながら学ぶC言語 柴田望洋著（ソフトバンク パブリッシング(株刊)）